第67号(2018年12月1日発行)
カーレポート
CaReport

挑むべき原点とは

２０１８年　代表者あいさつ

日頃よりカーレポをご愛顧いただき、誠にありがとうございます。

早いものでカーレポート第１号（２０１３年６月発行）から５年６ヶ月となり、それまで発行に尽力し、サポートしてきてくれた方々へ改めて深く感謝申し上げます。

第１号では社名を「カーレポ」という名称に変更したことと、「自動車の分野において社会の役に立ち、子孫に責任を持つ企業であり続けよう」という変更に至った背景をお伝えしました。

「カーレポ」という会社は、メーカーとリサイクラーの特徴を持っていることから、自動車品質とリサイクルに関する技術・知識で、お客様に安心感・安定感をより感じていただくこと、ならびに都市鉱山という２次資源で、環境負荷低減による経済成長の追求をしています。近年、人々にとってより安心で持続可能な社会づくりのために、循環型経済へのシフトが世界的に大事なテーマになっています。そのためには、メーカーとの協調による中小企業規模の新たなサービス開発も重要かもしれません。

さて私事ですが、このたび９月に「ＮＰＯ法人　ＲＵＭアライアンス（全国自動車リサイクル事業者連盟）」の後任代表理事に選任され、就任しましたことをご報告申し上げます。このＮＰＯ法人は、各方面で環境事業に関わり活躍する、同じ志をお持ちの方々からなる団体であり、「競争から協調へ」の精神で循環型社会の在り方を研究し、活動を推進しています。まだまだ若輩者ですが、自分にできる活動を進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

また、カーレポは今年10月に五カ年の中期経営に関する計画を立て、社員への周知を行いました。その際、全社計画を構築するために、経営に関する理念を再度見直す必要が生まれ、新たな視点で出発いたしました。そして、「第四次産業革命」とも呼ばれる現代の変革期において、弊社はＩＴを利用した付加価値の提供を具体的な目標に設定し、このたびの中期経営計画発表となった次第です。

「カーレポがお客様からの信頼に常に応えられる企業であるために、強みを磨き上げ、弱みを克服する」

このミッションに挑むことが我々の原点であり、同時にカーレポのブランドとして確立していきたいと考えています。

今年も残りわずかとなりました。今後ともよろしくお願い申しあげます。

再生資源の国内循環が必須

これまで以上に環境配慮を

今年の締めくくりに、ＥＬＶ事業部長を務める飛田幸輝さんを取材しました。ひたちなか工場は19年で操業13年目になります。前回はちょうど1年前に取材させていただき、ひたちなか工場の始まりと今後の展望についてお話しいただきました。（55～57号）今回は18年の振り返りと、これからの自動車リサイクル業界について、飛田部長の考えや想いを語っていただきました。

――この1年で、ひたちなか工場ではどんな変化がありましたか。

「4月に、中国政府が『雑品・モーター類・被覆銅線・ハーネス（アルミ・銅）などの産業廃棄物関連16品目を、18年12月31日をもって輸入禁止とする』と発表しました。これをきっかけに、車をリサイクルした後の廃車ガラについて、出荷方法を大きく変更しました」

「廃車ガラはシュレッダーとして出荷していましたが、出荷重量の30％近くはシュレッダーダスト（産業廃棄物）になってしまいます。発生したシュレッダーダストの一部は、これまで日本から中国へ輸出していましたが、これからは輸入禁止に伴って、国内循環が必須になると考えています。しかし現在、国内でも最終処分場の飽和が懸念されているため、最悪の場合、受け入れてもらえない可能性があります。そうなると様々な弊害が生じ、車の引き取りが出来なくなります。当社では、シュレッダーダストがほとんど発生しない、国内の全部利用＊（電炉）へ出荷するように取り組み、車の引き取りそのものを継続できる環境を維持しています」

――これまで以上に、環境への影響を考えた取り組みが必要なんですね。

「最近『循環型社会』という言葉を耳にすると思います。全部利用で再資源化される車は、現在の法整備から言うと車両本体の１００％近くがリサイクルされることになります。そういった面からも、これからの循環型社会へ大いに貢献できる取り組みだと思っています。また、廃車ガラ（鉄）だけでなくプラスチックのリサイクルにも積極的に取り組み、循環型社会の構築へ貢献していきたいと考えています」

――循環型社会構築への貢献は、会社を挙げて取り組んでいるテーマですね。そういった取り組みの中で、新たな目標などはありますか。

「全部利用は、自動車メーカー別に２つのチームに分かれています。そのうちＡＲＴ（自動車破砕残さリサイクル促進チーム）には、全国規模の出荷数表彰制度があり、19年は全国ＴＯＰ10入賞を目指したいと思っています。『全部利用へ出荷したい』という同業者が増えていると聞きますので、勢いに負けないよう頑張りたいですね」

――全国でＴＯＰ10入りしたら凄いですね。ぜひ頑張っていただきたいです。

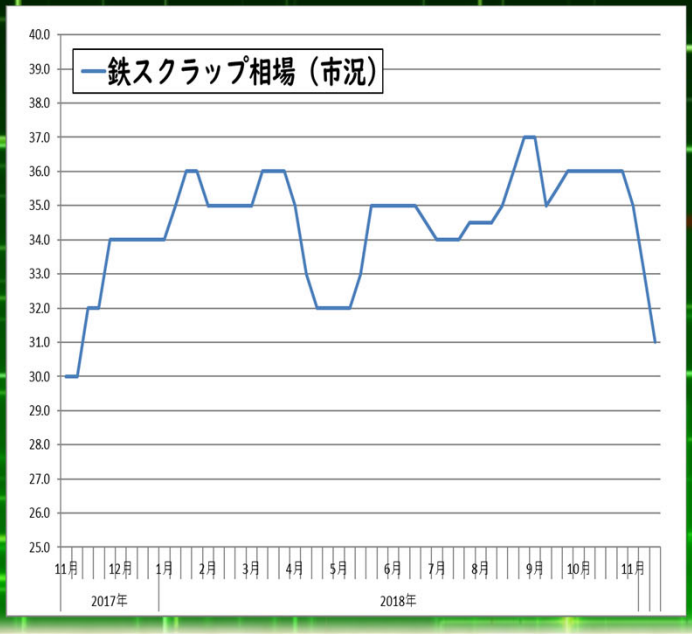
――近年、自動車業界は「１００年に1度の大変革期」と言われていますが、自動車リサイクル業界にはどんな影響があるとお考えですか。

「ガソリン・ディーゼルの時代から、ハイブリッド（ＨＶ）・プラグインハイブリッド（ＰＨＶ）・電気自動車（ＥＶ）・燃料電池自動車（ＦＣＶ）などのエコカーが登場し、ＡＩによる自動運転の開発など、自動車は非常に速いスピードで進化しています。エコカーの普及で、日本から海外へ輸出するエンジンの需要が変化したり、自動運転・自動ブレーキシステムの普及で中古部品の需要が変化するなど、現状とは全く違った世界に変わっていくと思います」

聞けば聞くほど奥が深く、たいへん勉強になりました。車の買い取りから経費のアレコレまで、頭も身体も忙しそうな飛田部長ですが、健康診断は満点だそうです。私も負けていられません（笑）これからも健康でいてくださいね♪

＊車の破砕残さを出来る限り発生させない方法で廃車ガラを再資源化すること

鉄スクラップ相場　Ferrous scrap metal price



東京製鐵株式会社　宇都宮特級価格は、11月１日から11月17日現在で４円/kg下落しました。関東鉄源協同組合の、11月契約の鉄スクラップ輸出入札は、４月以来の低価格で落札されました。国内電炉メーカーが荷受け止めに走っていることもあり、鉄スクラップ価格は安値で推移しそうです。

10月、中国の粗鋼生産量は32か月連続で増加しており、月間最高を更新しています。高品位鉄鉱石や鉄スクラップの活用、新規電炉の稼働増が原因と考えられます。また、冬場は建設工事が停滞するため、中国国内の市況が下落する可能性があります。中国国内の鋼材市況下落に伴う輸出価格の低下が起きると、日本からのアジア向け輸出も厳しい状況になると予想されます。鉄スクラップ相場も冬に入りそうです。皆様も、冬のご準備を……

ＥＬＶ事業部長　飛田 幸輝

ヨシナンゴト　～徒然なるままに～

常陸国風土記　行方の郡（なめがたのこおり）(1)

――立雨（たちさめ）ふり、行方の国――

霞ヶ浦と北浦に挟まれた行方の郡の成り立ちをご紹介します。何度行っても霞ヶ浦とのコントラストが美しい。

孝徳天皇の御代、茨城・那珂の国造（くにのみやつこ）が集まり、茨城の国造が所領の地・八つの里と那珂の国造が所領の地・七つ里、合計七百余戸*を割いて別に一郡とし、郡衙（ぐんが）を設置したという。

「行方の郡」と称するいわれは、昔、倭武の天皇（やまとたけるのすめらみこと）がこの地を御通りになり井戸の中に玉を落としてしまい、清玉の井と称している。さらに天皇は現原（あらはら）の丘を散策し食事をした。四方を眺めると山の襞（ひだ）、海辺の襞は長くうねうねと続いている。風光明媚な地形に心を惹かれ、「この地を『行細（なめくわし）の国』と称するべきである」と宣った。

土地の人々は「立雨（たちさめ）ふり、行方の国」と言っている。その岡は高く、視界が開けている。それで現原（あらはら）と名づけた。更に大益（おおや）の川にお出ましになり、小舟で川をお上りになった時、棹梶（さおかじ）が折れてしまった。そこでこの川を無梶河（かじなしがわ）と称するようになった。この川は茨城・行方両郡の境界をなしている。川に産する鮒（ふな）などの類は書ききれない程多い。

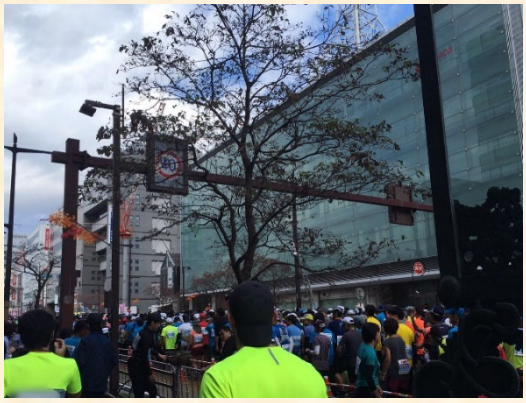
＊一里（さと）はおよそ50戸の単位

（霞ヶ浦）遠方に筑波の峰が見える

K.Akasu

坂に潜む悪魔とのたたかい

そして出張へ……



人の波で埋まる水戸駅前通り

10月28日（日）「第３回水戸黄門漫遊マラソン」が開催されました。もうお気付きの方もいらっしゃると思いますが、当社からも、赤須社長・桑名・小林（筆者）の３人で参加しました。思えば私のマラソンチャレンジは、今年６月の「メロンメロンラン」（３㎞）に始まったのですが、こんなにも早く５㎞に出場する日が来るとは……感慨深いものがあります。

漫遊マラソンは、スタートとゴールがＪＲ水戸駅北口前の通りに位置しており、市街地コースのため練習で走る勇気が出ず……本番がコース初見となりました。経験者の方々から「坂が本当に辛い」と聞いていたのですが、あれほどとは。行きは大工町交番前で左に曲がり、長く続く下り坂を走るのですが、「この坂どこまで続くんだろう」と、嫌～な予感が。千波湖の畔まで走ってＵターンするとすぐに、目の前にそびえる坂。＜つうこんの いちげき！コバヤシは ９９９９のダメージをうけた！＞ これまで練習しても筋肉痛にならなかった太ももの裏が、２日も続く筋肉痛になりました（涙）

どうにか35分程で走りましたが、５㎞男子の１位は15分台で完走されたとのこと。私が15分台で走るのは一生かけても厳しいと思いますが、せめて30分を切れるように頑張りたいと思いました。

昨年経験者の赤須社長も「坂がなぁ……」と話していましたが、余裕の20分台。桑名さんも、高台にある学校周りを走るなど坂対策をしたんだとか。元バスケ部の脚力も相まって、大健闘でした♪

……そしてこの後すぐ、赤須社長は海外出張へ。桑名さんと私は、「社長はお仕事なのに申し訳ない」と思いながら、ご褒美ランチを堪能したのでした（社長、すみません！）

スタート前の１枚／右 赤須社長、左上 桑名、左下 小林

カーレポギャラリー

CarepoGallery

ふるさとの風景

富士山遠望

筑波山と富士山

雪の富士

木枯らしとともに秋から冬の空気へ。今年も富士見の季節がやって来ました。第58号（18年3月1日発行）では、夕方の赤富士をご覧いただきましたが、今回は早朝の富士山をご覧ください。

空気が澄んだ日の朝、白く雪の積もった富士山が見えます。山肌のシワまでうっすらと確認できます。天下の副将軍、水戸光圀公が見たかもしれない風景です。通勤前のひととき、富士見の散歩はいかがでしょうか。

アクセス
茨城県ひたちなか市湊中央1丁目1　湊公園　い賓閣跡（ひんかくあと）
（カーレポ㈱　ひたちなか工場から車で11分）

撮影と文　ＥＬＶ事業部　渡邊　貴宣

カーレポ株式会社

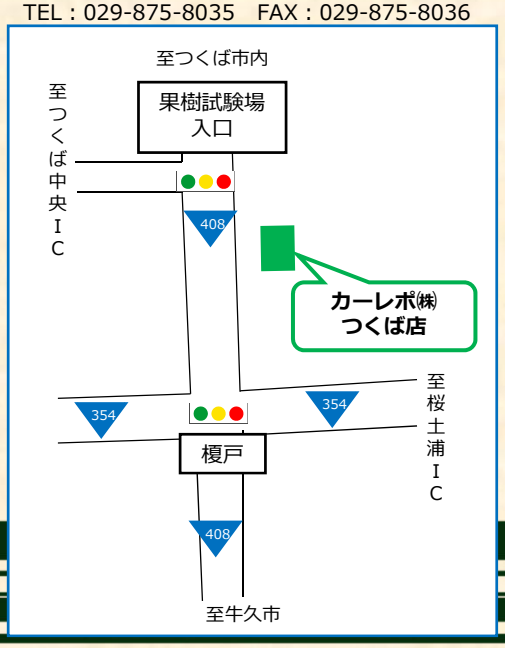
〒310-0801　水戸市桜川一丁目8番29号
TEL：029-300-2525　FAX：029-300-2424

ホームページもご覧ください。
http://www.carepo.jp/

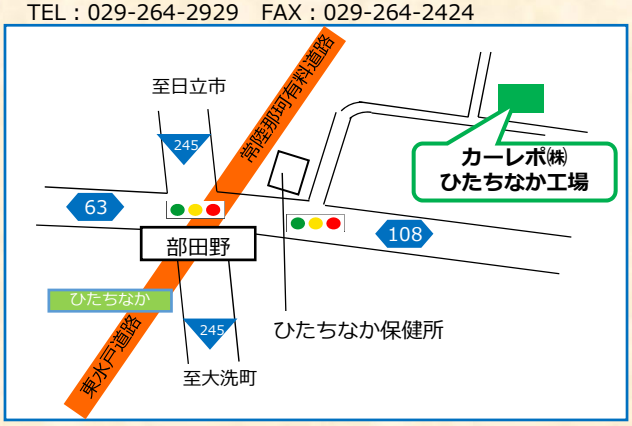
ご意見・ご要望も
お待ちしております。
koho@carepo.jp
（担当：広報委員会）

店舗のご案内

●つくば店　自動車買取
〒305-0853　茨城県つくば市榎戸433-7
TEL：029-875-8035　FAX：029-875-8036



●ひたちなか工場　自動車買取
〒312-0005　茨城県ひたちなか市新光町552-55
TEL：029-264-2929　FAX：029-264-2424



●水戸店　自動車買取・販売、部品販売
〒 310-0826　茨城県水戸市渋井町588-9
TEL：029-291-3336　FAX：029-291-3338